

## 第1学年 生活科学学習指導案

20〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
児童数〇名 (男子〇名、女子〇名)  
活動場所 〇年〇組教室  
指導者 □□□□

1 単元名 ようこそ! 「あき いっぱい ランド」へ

### 2 単元の目標

秋の裏山や校庭を探検し、身近な動植物の様子が夏と変わってきていることに気付くとともに、そこで見つけた秋の自然物や身の回りの素材を利用して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりながら、その面白さや自然の不思議さに気付き、それらを身近な人に伝えて、みんなで遊びを楽しんだり、自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。

### 3 指導にあたって

#### (1) 単元について

本単元は、主に学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」をもとに構成した。

本校は、「外鎌山」(学校の南南東に位置する標高292.5mの山、通称「朝倉富士」)をはじめとする小高い山々に囲まれる自然豊かな環境にある。校舎の周りには自然の草花がたくさんあり、四季の移り変わりと共に色とりどりの花が咲く。また、学校の裏山や向かいの山々も四季折々の表情があり、見るものの心を和ませる。このような素晴らしい環境のもと、子どもは積極的に自然と関わり昆虫や植物の採集を楽しんでいる。その一方で、一部の子どもは室内遊びがほとんどで、野外で自然と触れ合う体験が少ないことが生活の実態から分かってきた。

そこで、身近な校内の自然によりいっそう興味関心を向けさせるために、一学期には学校の腐葉土の中からカブトムシの幼虫を捕まえ、一人一匹ずつ飼育する活動を行った。今までカブトムシを見たことも触ったこともなかった子どもが、優しく幼虫を手に乗せ、その成長に深く興味を示すようになった。また、アサガオを栽培し生長記録をねばり強く続ける中で、草花が生長しやすい土と土の中にいる虫の関わり、草花にあげる水の量、気温と草花の生長の関わりなどに関心をもつ子どもがでてきた。

これらの活動を受けて、2学期は、春から行っている「どんぐり山」(子どもが名付けた学校の裏にある山)探検を継続して行い、季節の移り変わりに気付かせていきたい。そこから自分たちで見つけた秋の自然物を使って飾りやおもちゃをつくったり、友だちや幼稚園児と一緒に遊びを楽しんだりする活動を通して、自然の面白さや不思議さに気付かせていきたいと考え本単元を設定した。

子どもは、身近な自然と継続的に関わったり、みんなと体を動かしながら秋の自然を使った遊びや遊びに使う物を工夫してつくることで、電子ゲームやテレビ視聴では味わえない楽しさや自然の素晴らしさを発見するだろう。そこから、朝倉の自然の豊かさに気づき、この地域の自然を守ろうとする気持ちをもつようになることを願っている。さらに、子どもはこの活動で楽しかったことや気付いたことを身近な人に伝え、一緒に遊んだり楽しんだりしたくなるだろう。そこで、11月2

2日に行われる「フェスタ de あさくら」(生活科・総合的な学習の時間の発表会)に校区内の幼稚園児を招待し、一緒に秋の遊びを楽しむ計画を子どもと進めていきたい。小さな友だちも安全に一緒に楽しめるような遊びやそれらのルールや場などを考え、分かりやすく伝える工夫をしていくことで、より意欲的に活動が進められるのではないかと考える。

## (2) 児童について

## (3) 指導について

第一次では、身近な自然から季節の移り変わりに気付いていけるようにするために、「どんぐり山」や校庭での自然探検を継続していく。その際、前回と比べて樹木や草花がどう変わっているのかに焦点を当て、その変化が一目見て分かるように「どんぐり山カレンダー」を協同してつくり上げていきたい。

自然探検の中で諸感覚を使ってとらえた自然をくわしく伝えるようにするために、具体的な言葉を選び、言葉を増やしながらか「はっけんカード」に表現する活動を支えていきたい。それを紹介し合う場を設け、互いの気付きや思いを認め、みんなで共有していくことが、次の学習意欲につながると考える。

第二次では、自分で見つけた秋の自然物を使ってどんな遊び方があるか一人ひとりじっくり考える時間を取りたい。子どもたちの発想を広げたりつなげたりしてグループを作り、さらに話し合いの中から遊びを工夫させていきたい。また、子どもの発想や創作意欲を引き出すために、秋の自然や虫に関する本や自然物や身近な材料を使って作るおもちゃに関係した本などをすぐ手に取れる場所に用意しておくとともに、事前に必要な道具や材料を予想して準備しておきたい。

第三次では、秋の自然物を使った遊びをみんなで楽しむための「あき いっぱい ランド」を開く準備を進め、招待する園児たちに十分楽しんでもらうためにどんな工夫や配慮が必要であるかを話し合わせる。「おみせやさん」と「おきゃくさん」の役割に分かれて試行する活動を振り返る「おためしタイム」を設け、秋の良さに気付き広めているか、遊び方を分かりやすく伝えることができていたか、園児も楽しめる遊びや遊びの場になっていたかなど、項目を設けて自分たちの活動を自分たちで具体的に評価し、「バージョンアップタイム」で改善できるようにしたい。

このように、子ども一人ひとりの考えや思いを出し合い、認め合い、活かし合い、振り返る活動を多く取り入れ、みんなでよりよい方法を試行錯誤していく過程を大切に学習を展開していきたい。

#### 4 単元の評価規準

		(ア) 生活への 関心・意欲・態度	(イ) 活動や体験についての 思考・表現	(ウ) 身近な環境や自分に ついての気付き
単元の評価規準		進んで秋の自然と触れ 合い、思いや願いをもっ て遊びに使うものをつ くろうとしている。	秋の自然物を使って遊びを考 えたり、自分や相手に合った 遊びを工夫したりしている。	季節の変化や、みんなと遊 ぶ楽しさ、自分のよさや成 長に気付いている。
学習活動（小単元） における評価規準	第一次 あきを みつけよ う	①身近な自然、季節の変 化に目をむけ、関心をも ってかかわろうとして いる。	①夏と比べながら秋の自然の 様子をとらえ、見つけた自然 物をみんなに紹介している。	
	第二次 つくって あそぼう		②秋の自然物の特徴を生かし 工夫して遊びに使うものをつ くっている。	①自然の事物の面白さや 自然を使って遊びを作り 出す楽しさに気付いてい る。
	第三次 あき いっぱい ランドへ ようこそ！	②お店を開くことに関 心をもち、材料を集めて 遊びを考えたりおもち やをつくったりしよ うとしている。	③園児に楽しんでもらえるよ うに遊び方やルールなどを工 夫して、新たな遊びをつくり 出している。	②友達や園児と一緒に遊 んだり協力したりするこ との楽しさに気付いてい る。 ③遊びを振り返り、友達 のよさや自分の成長に気付 いている。

5 指導と評価の計画（23時間）

	小単元名	学習活動	教師の働きかけ	評価及び評価の方法
第一 次	あきを みつ けよう（4）	○校内の秋探しをする。（1）  ○学校の周りの秋探しをする。（2）  ○見つけた秋を紹介する。（1）	春や夏の様子と比べて変わったところがないか意識して探すように支援する。  以前に行った時の「どんぐり山」の様子を思い出せるように掲示物を提示する。  発見したことや気付いたことをカードにまとめて友達に伝えられるようにする。	（ア）① 主に行動観察やカード  （ア）① 主に行動観察やつぶやき  （イ）① 主に行動観察やカード
第二 次	つくって あ そぼう（6）	○グループで秋のかざりやおもちやを作る。（4）  ○作った物で友達と遊ぶ。（2）	見つけた秋の自然物の色や形のおもしろさを味わいながら作ることができるようにする。  自然物の特徴を生かして遊ぶことができるように支援する。	（イ）② 主に行動観察や作品  （ウ）① 遊びの工夫 主に行動観察やカード
第三 次	あき いっぱ い ランドへ ようこそ （13）	○「フェスタ de あさくら」に向けて準備をする。（6）  ○ペアグループに分かれてお店屋さんを楽しみ、工夫点・改善点を交流する。（1）  ○バージョンアップ タイム I （1）	招待する園児に楽しんでもらえるようなお店の内容を考えるよう支援する。  お店屋さんとお客さんに分かれて「おためしタイム」をし、工夫点・改善点を交流し合うようにする。  前時の反省をもとに、各グループで自分たちのお店を改善・修正する。	（ア）② 主にグループ活動への参加  （イ）③ 主に行動観察や発表  （イ）③ 主に行動観察やグループ活動への参加

第 三 次	○バージョンアップの方法を話し合う。(本時 9/13)	一つのグループの発表から、改善するポイントを整理し、みんなで話し合う。	(イ) ③ 主に発言内容
	○バージョンアップタイムⅡ (1)	園児にもっと楽しんでもらえるように、各グループで最終チェックをする。	(イ) ③ 主に行動観察 グループ活動への参加
	○「あき いっぱいランド」に園児を招待し、一緒に遊びを楽しむ。(2)	園児に積極的に関わり、遊び方を分かりやすく伝えることができるように支援をする。	(ウ) ② 主に行動観察
	○活動を振り返る。 (1)	秋探しや遊びを通して気付いたこと、楽しかったことなどをカードに書き、交流する。	(ウ) ③ 主に発表やカード

6 本時案（全23時間：本時第19時）場所：教室

(1) 本時の目標

「あき いっぱい ランド」で小さな友だちがさらに秋を楽しめるように、遊びやルールについて話し合い、バージョンアップできるようにする。

(2) 展開

学 習 活 動	○教師の支援 ☆評価	評価及び評価の方法
1 本時のめあてを確かめる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;">                     小さな おともだちに もっと たのしんで もらえる                      「あき いっぱい ランド」に しよう！                 </div>		
2 一つのグループが遊びを紹介する。	○友だちの遊びを見るポイントを定める場を設ける。 ・自分たちの見つけた秋の楽しさをアピールできていたか。 ・小さな友だちも楽しめる遊びや遊びの場になっていたか、など。 ○お客さん役の子どもに、園児になりきるように声をかける。	
3 ポイント別に意見を出して話し合う。 ①はなしかた・うごき ②あそびかた・ルール ③おもちゃ ④あきのよさ	○子どもが意見や考えを整理しやすいように板書を工夫する。 ○秋の良さに気づき広めていけるように助言する。 ☆見るポイントを理解して、グループの良い所や改善点を見つけている。	(イ)③ 主につぶやきや発言内容
4 学習の振り返りをする。	○自分のめあてについて振り返りをし、小さな変化にも目を向けられるように助言する。 ○気づきがあった場面や良い意見を出した子どもの学びを認めるようにする。	